

新庁舎の基本理念と基本方針（案）

- (1) 基本理念（案）・・・・・・・・・・ 1
- (2) 基本方針（案）・・・・・・・・・・ 1
- (3) 必要となる機能（案）・・・・・・・・ 2
- (4) 上位計画との整合性・・・・・・・・ 3

(1) 基本理念(案)

新庁舎整備にあたっては、本市が目指す「人が集い 笑顔広がる 幸せ実感都市 まつやま」の実現に向け、すべての人と環境にやさしく、また、次世代に大きな負担を残さず、将来にわたり持続可能な庁舎とするため、次のとおり基本理念(案)を考えました。

人と環境にやさしく、 安全・安心と笑顔を未来につなげる庁舎

(2) 基本方針(案)

新庁舎整備の基本理念(案)に基づき、次の5つの基本方針(案)を考えました。

①市民が利用しやすく親しみやすい庁舎

今後ますます進むと考えられる高齢化や市民ニーズの多様化へ対応するため、市民が手続き・相談等の市民サービスを利用しやすい庁舎を目指します。また、本市のまちづくりを先導する拠点として周辺地域と連携し、市民が気軽に集い交流することのできる、親しみやすい庁舎を目指します。

②災害対策拠点として安全・安心な庁舎

南海・東南海地震や水害への備えが急務となる中、市民と職員が安心して利用できる安全性を備えた庁舎を目指します。また、大規模災害の発生時には、迅速な災害対応や市民への情報発信を行う、災害対策本部機能としての役割が求められます。こうした役割を十分に果たすことのできる、安全・安心な庁舎を目指します。

③すべての人にやさしい庁舎

高齢者、障がい者、乳幼児連れや日本語に不慣れな方などが利用しやすいよう、バリアフリーに取り組むことはもちろん、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、市役所を訪れる全ての人に安全でわかりやすく、ゆとりのある庁舎を目指します。

④環境対策に配慮した庁舎

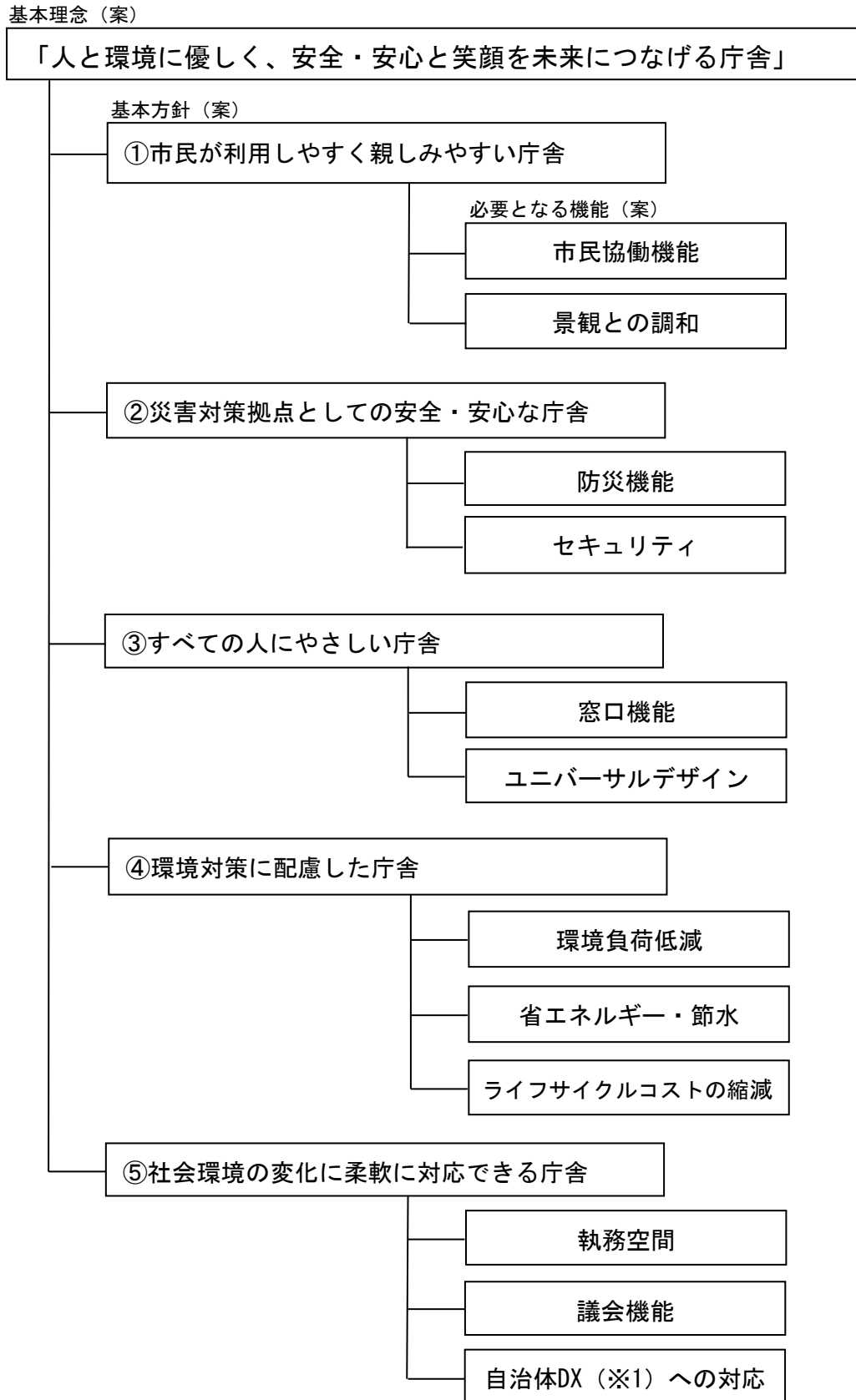
本市が目指す「誇れる環境モデル都市まつやま」の実現に向け、自然エネルギーの活用や雨水再利用、省エネルギー化、節水に取り組み、環境負荷を低減し、環境にやさしい庁舎を目指します。また、維持管理コストを削減し、ライフサイクルコストの縮減を目指します。

⑤社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎

目まぐるしく進歩する技術や、人口減少に伴う行政需要と社会情勢の変化に柔軟に対応することのできる庁舎を目指します。また、デジタル技術やデータを活用して、市民の利便性を向上させるとともに、職員の業務の効率化を図り、行政サービスの更なる向上を目指します。

(3) 必要となる機能(案)

新庁舎の基本理念(案)の実現に向け、基本方針(案)を具現化するための必要となる機能(案)を以下のように設定しました。



※1: 自治体DX(※1)とは、自治体が最新のデジタルテクノロジーを活用して住民に提供するサービスや業務フローなどを変革させ、住民の利便性向上と職員の業務効率アップを図ることです。

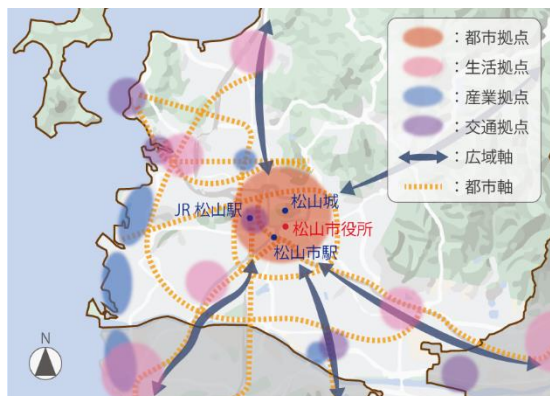
(4) 上位計画との整合性

本市の都市計画等の上位計画には以下のようなものがあり、これらの計画との整合性を図りながら、庁舎整備を進める必要があります。

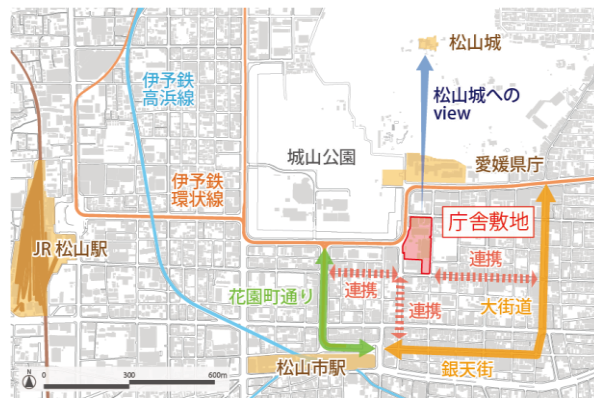
- ・第6次松山市総合計画/平成30年3月
- ・松山市都市計画マスタープラン/平成23年3月
- ・松山市景観計画 /平成30年4月
- ・松山市地域防災計画 /令和元年度
- ・松山市公共施設等総合管理計画 /平成29年2月（令和4年3月一部改訂）
- ・松山市公共施設再編計画 /平成29年2月

庁舎敷地は「松山市都市計画マスタープラン」の「都市拠点」の中心に位し、JR松山駅や松山市駅といった「広域軸」や「都市軸」の結節点となる場所です。また、城山公園が隣接した松山市の中心的な場所であり、庁舎整備をまちの活性化に繋げることが重要です。

新庁舎を市民が日常的に気軽に集まり、官民協働で市の未来を考える「市民協働拠点」とすることで、交流や地域活動の促進を図り、エリア全体に相乗効果をもたらす、松山市の発展の核とします。



■「松山市都市計画マスタープラン」将来イメージ



■松山市中心部との連携イメージ